

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	高齢化もなんのその！地域の“絆”再生事業
対象地域	岐阜県高山市高根地域
活動概要	<p>高山市の高根地域は高齢化率43%、高齢化世帯37%、内独居高齢者世帯は19%と極めて高齢者の多い地域である。また、この地域は雪深く、冬季になると他地域で暮らす子ども世帯のところで生活する高齢者もいるが、それができない高齢者は、毎日不安を感じながら家に閉じこもりがちになるとともに、健康状態も悪化する傾向がある。そのため、高山市の遊休施設を活用した冬季高齢者住宅の開設を核とした“地域コミュニティ”の再生事業を実施し、高齢者が安全で安心して暮らせ、また生きがいの創出を図る。</p>
今年度の主な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 高山市の遊休施設である旧教員住宅を冬季高齢者専用住宅に改装し、開設。</li> <li>② 他地域の若者などを募り、冬季間の除雪ボランティア組織を結成。上記施設入居者の家屋の雪下ろしなどを実施。</li> <li>③ 現在活動している高齢者でつくるグループを活用し、流木オブジェや寒干し大根などを高根地域の新たな特産品とし、販路の拡大を図ることで、高齢者の生きがいの創出を図る。</li> <li>④ 市内他地域の住民が高根地域を訪れ、地域を越えた交流を図る。</li> </ol>

活動結果	<p>この地域における事業展開は、地域住民が地域の高齢者福祉の推進を考える上で、よい起爆剤になった。全国的にも例のない事業は、果たして高齢者支援になるのかという、不安を抱き半信半疑の住民も多くいたが、だからこそ、住民の意見が多く聞けた。町内会、地区民協、ケア会議等でそれぞれの思いを語る裏には地域のことを思う熱い気持ちが伝わってきた。</p> <p>また、雪下ろしボランティアの活動は、住民の協力する気持ちを全面的に出させるきっかけ作りとなった。</p> <p>特産品づくり支援は、冬の産業としての方向性を見出せたように思われる。今年は6件の農家が寒干し大根づくりに取り組み、元気が出る会のメンバーと販売方法や販売ルートの情報交換を行った。今年度は初年度の取り組みとして、寒干し大根専用のホームページの立ち上げや、地元スーパーへの売り込み、道の駅等での販売を試みた。商品のラベルには野麦峠の名前を入れるなど、工夫をした。</p> <p>これらの事業はそれぞれに行ったものではなく、のくとい館を核として地域に波及していき、それが地域住民の福祉に対する再確認と、冬の産業という新たな展開を生み出している。</p> <p>今後は、この波及効果を最大限に利用していく仕組みづくりが課題である。来年度に向けて、市が設置する集落支援員や長期滞在ボランティアと協力し、地域活性化の波を絶やすことなく、また地域住民同士のつながりが、前述した事業の更なるステップと課題解決に向けた最大のポイントとなる。</p>
当初予想していなかった効果	<p>のくとい館に入居された人と、その家族の結びつきが以前よりも強くなった。入居者の家族が、生活の変化を心配して様子を見に来る頻度が高くなり会う機会が多くなったこと、一方、入居者は冬の生活への不安感が解消され、この時期心の余裕ができたため、様子を見に来る子どもや親族に優しく接することができたためと考えている。</p> <p>また、全国的にも珍しい事業であることで、テレビや新聞・ラジオ等で取り上げられた。このことは、全国で同じような課題を抱える地域へ向け、打開策の一つの方法として発信できた。その後問い合わせが多くあり事業への関心の高さが伺えた。</p> <p>雪下ろしボランティアでは、歓迎会や交流会の開催により、都会の若者と入居者とのふれあいを試みた。当初はあまり積極的ではなかったが、滞在の後半になると、進んで接するようになり、祖父母と孫のような関係を構築できた。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>△開設準備の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>△夕食の様子</p> </div> </div>
応募団体名	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会
リンク	<a href="http://www.takayamashakyo.net/">http://www.takayamashakyo.net/</a>
部局／担当者名	地域福祉課 小峠 賢次
連絡先	(0577)35-0294
推薦市町村名	岐阜県高山市